

## 設置計画の概要

事 項	記 入 欄
設置手続きの種類	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ者	コクツクダイガクホウシツ オビロチクサンダイガク 国立大学法人 帯広畜産大学
フリガナ大学の名	オビロチクサンダイガクダイガクイン 帯広畜産大学大学院 (The University of Agriculture and Veterinary Medicine Graduate School)
新設学部等において養成する人材像	<p>①どのような人材を養成するのか</p> <p>【畜産生命科学専攻】 生体内部のミクロレベル、個体を対象としたマクロレベル、さらに周囲環境を含めた広範囲な生命科学研究領域から学ぶことによって、家畜とその周囲環境を総合的に理解し、畜産科学およびその関連分野への多角的な貢献ができる人材を養成する。</p> <p>【食品科学専攻】 有機化学、生物化学、微生物学、分子生物学を基礎として、食品科学に関する高度な知識と技能を理解し、農畜産物へのバイオプロセスの応用をできる人材、または食品成分を解明できる人材を養成する。</p> <p>【資源環境農学専攻】 持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、植物の生理・生態・遺伝や土壌に関する高度な知識をもとに食料生産環境を改善する人材、さらに、食料生産に関わる経済学や経営学の高度な知識をもとに食料生産を経営・経済的に維持発展させることのできる人材を養成する。</p> <p>②学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的</p> <p>【畜産生命科学専攻】 成熟化した国際社会における畜産で重視される動物福祉や環境保全を踏まえ、家畜の生産性向上を中心とした家畜の生理機構の基礎から応用までの高度な知識と技能を修得させる。</p> <p>【食品科学専攻】 食生活の高度化が進む中、食品科学の役割が益々重要になっていることを踏まえ、食品の一次機能を基礎に、二次機能を主眼とする食品加工・利用学分野と三次機能を主眼とする食品機能学分野の高度な知識と技能を修得させる。</p> <p>【資源環境農学専攻】 食料問題がクローズアップされる中、先進国において著しく食料自給率の低いわが国において、食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための高度な知識と技能を修得させる。</p> <p>③卒業後の進路等</p> <p>【畜産生命科学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程への進学、畜産生命科学およびその関連分野における企業等への専門家、技術者としての就職が見込まれる。</p> <p>【食品科学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程への進学、食品科学およびその関連分野における企業等への専門家、技術者としての就職が見込まれる。</p> <p>【資源環境農学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程への進学、資源環境農学およびその関連分野における企業等への専門家、技術者としての就職が見込まれる。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>①どのような人材を養成するのか</p> <p>【畜産管理学専攻】 家畜生産を支える生物機能の遺伝情報の解析や生殖工学、栄養・生産生理などからの科学的解明を図る生産学分野と、世界と日本の社会経済関係を正しく認識し、接続可能な畜産・農業システム発展の解明・創造を目指す経営・経済学分野において、相互に密接な学際的連携を保ちながら、高度な専門的知識と技術を修得した人材を養成する。</p> <p>【畜産環境科学専攻】 農学・畜産学及び環境科学の基礎をなす専門分野であり、主に草地、作物学、土地利用学並びに農業及び畜産機械学に関する4領域について自然科学的、農学的手法を基礎とした教育研究を行い、畜産環境に関する高度な専門的知識と技術を修得した人材を養成する。</p> <p>【生物資源科学専攻】 食品及び生命科学に関する教育・研究を通して、生物生産物などの生物資源の生体における機能の解明、食品加工への応用並びに食品関連のバイオ産業に関する技術などに幅広く対応できる高度な専門的知識と技術を修得した人材を養成する。</p> <p>②学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的</p> <p>【畜産管理学専攻】 動物生産を支える生物機能の遺伝情報の解析や生殖工学、栄養・生産生理などからの科学的解明、世界と日本の社会経済関係を正しく認識し、接続可能な畜産・農業システム発展の解明・創造について、高度な専門的知識と技術を修得させる。</p> <p>【畜産環境科学専攻】 農学・畜産学及び環境科学の基礎をなす専門分野であり、主に草地、作物学、土地利用学並びに農業及び畜産機械学に関する4領域について自然科学的、農学的手法を基礎とした教育研究を行い、畜産環境に関する高度な専門的知識と技術を修得させる。</p> <p>【生物資源科学専攻】 食品及び生命科学に関する教育・研究を通して、生物生産物などの生物資源の生体における機能の解明、食品加工への応用並びに食品関連のバイオ産業に関する技術などに幅広く対応できる高度な専門的知識と技術を修得させる。</p> <p>③卒業後の進路等</p> <p>【畜産管理学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程に進学する者や、科学技術者、農林水産業、食品技術者、医療保険従事者として就職する者が多い。</p> <p>【畜産環境科学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程に進学する者や、農林水産業、食品技術者、サービス産業に就職する者が多い。</p> <p>【生物資源科学専攻】 卒業後の進路としては、岩手大学連合農学研究科博士課程に進学する者や、科学技術者、農林水産業、食品技術者として就職する者が多い。</p>

新設学部等において 取得可能な資格	<p>【畜産生命科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（農業）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul> <p>【食品科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（理科）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul> <p>【資源環境農学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（農業・理科）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul>
----------------------	--

既設学部等において 取得可能な資格	<p>【畜産管理学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（農業）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul> <p>【生物資源科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（理科）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul> <p>【畜産環境科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許（農業・理科）             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③高等学校教諭1種免許状を有し、修士の学位か、又は大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上が必要</li> </ul> </li> <li>・高等学校教諭1種免許             <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格 ②資格取得可能</li> <li>③学士の学位を有すること</li> </ul> </li> </ul>
----------------------	---

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
新設学部等の概要	畜産学研究科修士課程	畜産生命科学専攻	2	18	-	36	修士(農学)	畜産科学分野	平成22年4月	畜産管理学専攻	14	5
										畜産環境科学専攻	11	2
										計	25	7
		食品科学専攻	2	10	-	20	修士(農学)	畜産科学分野	平成22年4月	生物資源科学専攻	15	4
										計	15	4
		資源環境農学専攻	2	13	-	26	修士(農学)	畜産科学分野	平成22年4月	畜産管理学専攻	6	3
										畜産環境科学専攻	19	7
										計	25	10
既設学部等の概要（現在の状況）	畜産学研究科修士課程	畜産管理学専攻(廃止)	2	9	-	18	修士(農学)	畜産科学分野	平成6年4月	畜産生命科学専攻	14	5
										資源環境農学専攻	6	3
										計	20	8
		畜産環境科学専攻(廃止)	2	24	-	48	修士(農学)	畜産科学分野	平成6年4月	畜産生命科学専攻	11	2
										資源環境農学専攻	19	7
										計	30	9
		生物資源科学専攻(廃止)	2	8	-	16	修士(農学)	畜産科学分野	平成6年4月	食品科学専攻	15	4
										計	15	4

【備考欄】

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(畜産生命科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻コア科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		7	11					集中
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		7	11					
	家畜生産学特論	1前	2				○		5	6		4			
	生態学特論	1前	2				○		2	5		3			
	畜産生命科学特別演習	1通	4					○	7	11		7			
	特別研究特論	1通	2				○		7	11		7			
	小計(6科目)	—	18	0	0				35	55	0	21	0		
コース選択必修	家畜育種学特論	1前		2			○		1			1		5科目中2科目以上を選択必修	
	家畜管理学特論	1前		2			○		1	1		1			
	家畜栄養学特論	1後		2			○			3					
	家畜繁殖学特論	1後		2			○		1	1					
	家畜生体機能学特論	1前		2			○		2	1					
	小計(5科目)	—	0	10	0				5	6	0	2	0		
環境生態学	環境生命科学特論	1前		2			○		2	5				3科目中2科目以上を選択必修	
	生態システム生命科学特論	1後		2			○		2	1					
	保全生態リスク管理学特論	1前		2			○			4					
	小計(3科目)	—	0	6	0				4	10	0	0	0		
英語科目選択必修	English Communication for Science I	1前		2			○			1	1	1	1	3科目中1科目を選択必修	
	English Communication for Science II	1後		2			○			1	1	1	1		
	English Communication for Science III	1前		2			○			1	1	1	1		
	小計(3科目)	—	0	6	0				0	3	3	3	0		
サブドメイン	畜産科学特論Ⅰ	1通		2			○		1					集中	
	畜産科学特論Ⅱ	1通		2			○		1					集中	
	畜産科学特論Ⅲ	1通		2			○		1					集中	
	小計(3科目)	—	0	6	0				3	0	0	0	0		
他専攻科目	農産物加工学特論	1前		2			○							兼2	
	食品栄養学特論	1後		2			○							兼2	
	畜産物利用学特論	1後		2			○							兼3	
	食品生物科学特論	1前		2			○							兼2	
	食品化学特論	1後		2			○							兼2	
	食品分子生物学特論	1後		2			○							兼3	
	作物ゲノム育種学特論	1前		2			○							兼3	
	植物生産制御学特論	1前		2			○							兼4	
	草地牧畜学特論	1後		2			○							兼4	
	農業機械システム工学特論	1前		2			○							兼3	
	農業農村工学特論	1後		2			○							兼2	
	大気地盤情報学特論	1後		2			○							兼2	
	畜産経営学特論	1前		2			○							兼2	
	農業政策学特論	1後		2			○							兼1	
	応用農業統計学特論	1前		2			○							兼1	
	疫学と経済	1後		2			○							兼2	
	家畜生産衛生学	1前		2			○							兼6	
	乳肉生産衛生学	1後		2			○							兼2	
	食品衛生経済学	1後		2			○							兼2	
	循環型畜産科学	1前		2			○							兼2	
	動物福祉論	1前		2			○							兼2	
小計(21科目)	—	0	42	0					0	0	0	0	0		
共通教養科目	科学と人間	1後		2			○							兼1	
	環境法制度論	1前		2			○							兼1	
	教育学特論	1前		2			○							兼1	
	環境と行動	1後		2			○							兼1	
	生物環境モデル論	1後		2			○							兼1	
	歴史と生命	1前		2			○							兼1	
	体育と健康	1前		2			○							兼2	
	「北海道文学」論	1前		2			○							兼1	
	西洋環境文化論	1後		2			○							兼2	
	小計(9科目)	—	0	18	0					0	0	0	0	0	

科共通	インターンシップ演習	1通		1			○		2						集中
目通	小計(1科目)	—	0	1	0		—		2	0	0	0	0		—
合計(51科目)		—	18	89	0		—		49	74	3	26	0		—
学位又は称号	修士(農学)	学位又は学科の分野				農学関係									
設置の趣旨・必要性															
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の成熟化に伴い、畜産においても動物の福祉や環境保全を踏まえた上で、家畜の生産性向上を図ることのできる人材が求められるようになってきている。この要請に応えるべく、家畜生産科学と環境生態学の大学院レベルの基礎(専攻コア科目)を学び、それを基として家畜生産科学、または環境生態学をより深く学ぶことができるカリキュラムを教育内容とした本専攻を設置することとした。また、同時に、食の安全に深く関係する家畜衛生の問題にも対応できる人材を養成するため、畜産衛生学専攻の科目も履修可能となるようなカリキュラムに改編し、獣医畜産融合教育を前進させる。</li> </ul> <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必修の専攻コア科目、コース別選択必修科目(家畜生産科学コース、環境生態学コース)を設定するなど、人材の養成目標に即した体系的な教育カリキュラムに改編</li> <li>講義と実習を一体化した総合型授業の導入</li> <li>秋期入学にも対応可能な4セメスター制の採用</li> <li>インターンシップ演習を取り入れるなど実学を重視した教育プログラムを編成</li> <li>専攻の区分を越えて学生が必要と認める科目、興味のある科目を受講することができるよう、専攻間の相互乗り入れを可能とする。</li> <li>学士課程(畜産科学課程)教育からの一貫した人材養成目的の明確化</li> </ul> <p>〈畜産生命科学専攻の特色〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生体内部のミクロレベル、個体を対象としたマクロレベル、さらに周囲環境を含めた広範囲な生命科学研究領域から学ぶことによって、家畜とその周囲環境を総合的に理解し、畜産科学およびその関連分野への多角的な貢献ができる人材を養成する。</li> <li>成熟化した国際社会における畜産で重視される動物福祉や環境保全を踏まえ、家畜の生産性向上を中心とした家畜の生理機構の基礎から応用までの高度な知識と技能を修得させる。</li> </ul>															
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<ul style="list-style-type: none"> <li>30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。</li> <li>専攻コア科目必修18単位</li> <li>英語選択必修科目2単位</li> <li>コース別選択必修科目4単位以上</li> <li>アドバンスト専門科目、他専攻科目の中から4単位まで、共通教養科目からは4単位まで修了要件に算入することができる。</li> </ul>								1学年の学期区分				4学期			
								1学期の授業期間				7.5週			
								1時限の授業時間				180分			

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(食品科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻コア科目	特別研究Ⅰ	1通	4					○			4	8					
	特別研究Ⅱ	2通	4					○			4	8					
	食品加工・利用学特論	1前	2				○				1	5		1			
	食品機能科学特論	1前	2				○				3	3		2			
	特別研究特論	1前	2				○				4	8		3			
	食品加工・利用学特別演習※	1通		4				○			1	5		1			
	食品機能科学特別演習※	1通		4				○			3	3		2			
	小計(7科目)	—		14	8	0			—		20	40	0	9	0		
食品加工・選利	農産物加工学特論	1前		2			○				2						
	食品栄養学特論	1後		2			○			1			1				
	畜産物利用学特論	1後		2			○				3						
	小計(3科目)	—		0	6	0		—		1	5	0	1	0			
食品機能選択必修	食品生物科学特論	1前		2			○			1	1						
	食品化学特論	1後		2			○			1	1		1				
	食品分子生物学特論	1後		2			○			1	1		1				
	小計(3科目)	—		0	6	0		—		3	3	0	2	0			
英語選択必修	English Communication for Science I	1前		2			○				1						
	English Communication for Science II	1後		2			○				1						
	English Communication for Science III	1前		2			○				1						
	小計(3科目)	—		0	6	0		—		0	3	0	0	0			
アドバンスト専門	畜産科学特論Ⅰ	1通		2			○			1							
	畜産科学特論Ⅱ	1通		2			○			1							
	畜産科学特論Ⅲ	1通		2			○			1							
	小計(3科目)	—		0	6	0		—		3	0	0	0	0			
他専攻科目	家畜育種学特論	1前		2			○										
	家畜管理学特論	1前		2			○										
	家畜栄養学特論	1後		2			○										
	家畜繁殖学特論	1後		2			○										
	家畜生体機能学特論	1前		2			○										
	環境生命科学特論	1前		2			○										
	生態システム生命科学特論	1後		2			○										
	保全生態リスク管理学特論	1前		2			○										
	作物育種ゲノム学特論	1前		2			○										
	植物生産制御学特論	1前		2			○										
	草地牧畜学特論	1後		2			○										
	農業機械システム工学特論	1前		2			○										
	農業農村工学特論	1後		2			○										
	大気地盤情報学特論	1後		2			○										
	畜産経営学特論	1前		2			○										
	農業政策学特論	1後		2			○										
	応用農業統計学特論	1前		2			○										
	疫学と経済	1後		2			○										
	家畜生産衛生学	1前		2			○										
	乳肉生産衛生学	1後		2			○										
	食品衛生経済学	1後		2			○										
	循環型畜産科学	1前		2			○										
	動物福祉論	1前		2			○										
小計(23科目)	—		0	46	0			—		0	0	0	0	0			
共通教養科目	科学と人間	1後		2			○										
	環境法制度論	1前		2			○										
	教育学特論	1前		2			○										
	環境と行動	1後		2			○										
	生物環境モデル論	1後		2			○										
	歴史と生命	1前		2			○										
	体育と健康	1前		2			○										
	「北海道文学」論	1前		2			○										
	西洋環境文化論	1後		2			○										
小計(9科目)	—		0	18	0			—		0	0	0	0	0			

科共 目通	インターンシップ演習	1通		1		○		2						集中
	小計(1科目)	—	0	1	0	—		2	0	0	0	0		—
合計(52科目)		—	14	97	0	—		29	51	0	12	0		—
学位又は称号		修士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係						
設置の趣旨・必要性														
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の高度化が進行し、食品科学の役割が益々重要となっている今日、食品科学に関する高度な知識と技能を体系的に修得した人材が食品関連の産業において強く求められている。この要請に応えるべく、食品加工・利用学と食品機能科学の大学院レベルの基礎(専攻コア科目)を学び、それを基として食品加工・利用学と食品機能科学をより深く学ぶことができるカリキュラムを教育内容とした本専攻を設置することとした。また、同時に食の安全問題にも対応できる人材を養成するため、畜産衛生学専攻科目も履修可能となるようなカリキュラムに改編し、獣医畜産融合教育を前進させる。</li> </ul> <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修の専攻コア科目、コース別選択必修科目(食品加工・利用学コース、食品機能科学コース)を設定するなど、人材の養成目標に即した体系的な教育カリキュラムに改編</li> <li>・講義と実習を一体化した総合型授業の導入</li> <li>・秋期入学にも対応可能な4セメスター制の採用</li> <li>・インターンシップ演習を取り入れるなど実学を重視した教育プログラムを編成</li> <li>・専攻の区分を越えて学生が必要と認める科目、興味のある科目を受講することができるよう、専攻間の相互乗り入れを可能とする。</li> <li>・学士課程(畜産科学課程)教育からの一貫した人材養成目的の明確化</li> </ul> <p>〈食品科学専攻の特色〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機化学、生物化学、微生物学、分子生物学を基礎として、食品科学に関する高度な知識と技能を理解し、農畜産物へのバイオプロセスの応用をできる人材、または食品成分を解明できる人材を養成する。</li> <li>・食生活の高度化が進む中、食品科学の役割が益々重要になっていることを踏まえ、食品の一次機能を基礎に、二次機能を主眼とする食品加工・利用学分野と三次機能を主眼とする食品機能学分野の高度な知識と技能を修得させる。</li> </ul>														
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>・30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p>・専攻コア科目必修14単位、選択必修4単位</p> <p>・英語選択必修科目2単位</p> <p>・コース別選択必修科目4単位以上</p> <p>・アドバンスト専門科目、他専門科目の中から4単位まで、共通教養科目からは、4単位まで修了要件に算入することができる。</p>								1学年の学期区分			4学期			
								1学期の授業期間			7.5週			
								1時限の授業時間			180分			

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(資源環境農学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻コア科目	特別研究Ⅰ	1通	4					○			10	11	1			集中 ※3科目 中1科目 を選択必 修
	特別研究Ⅱ	2通	4					○			10	11	1			
	資源環境学特論	1前	2					○			5	6		1		
	地域環境学特論	1前	2					○			5	5	1	2		
	特別研究特論	1通	2						○		10	11	1	3		
	環境植物学特別演習※	1通		4					○		5	6		1		
	農業環境工学特別演習※	1通		4					○		2	4	1			
	農業経済学特別演習※	1通		4					○		3	1		2		
小計(8科目)		—	14	12	0			—		50	55	5	9	0	—	
修科環 目ス植 選物 択学 必	作物ゲノム育種学特論	1前		2				○			2	1				3科目中 2科目以 上を選択 必修
	植物生産制御学特論	1前		2				○			1	3				
	草地牧畜学特論	1後		2				○			2	2				
小計(3科目)		—	0	6	0			—		5	6	0	0	0	—	
修科農 目業環 選境 択学 必	農業機械システム工学特論	1前		2				○				2	1			3科目中 2科目以 上を選択 必修
	農業農村工学特論	1後		2				○				2				
	大気地盤情報学特論	1後		2				○			2					
小計(3科目)		—	0	6	0			—		2	4	1	0	0	—	
修科農 目業経 選済 択学 必	畜産経営学特論	1前		2				○			1	1				3科目中 2科目以 上を選択 必修
	農業政策学特論	1後		2				○			1					
	応用農業統計学特論	1前		2				○			1					
小計(3科目)		—	0	6	0			—		3	1	0	0	0	—	
必修英 科語 選科 目択	English Communication for Science I	1前		2				○				1	1	1		3科目中 1科目を 選択必修
	English Communication for Science II	1後		2				○				1	1	1		
	English Communication for Science III	1前		2				○				1	1	1		
小計(3科目)		—	0	6	0			—		0	3	3	3	0	—	
科スア 目トド 専バン 門	畜産科学特論Ⅰ	1通		2				○			1					集中 集中 集中
	畜産科学特論Ⅱ	1通		2				○			1					
	畜産科学特論Ⅲ	1通		2				○			1					
小計(3科目)		—	0	6	0			—		3	0	0	0	0	—	
他専攻 科目	家畜育種学特論	1前		2				○								兼2 兼3 兼3 兼2 兼3 兼7 兼5 兼4 兼2 兼2 兼3 兼2 兼2 兼3 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2
	家畜管理学特論	1前		2				○								
	家畜栄養学特論	1後		2				○								
	家畜繁殖学特論	1後		2				○								
	家畜生体機能学特論	1前		2				○								
	環境生命科学特論	1前		2				○								
	生態システム生命科学特論	1後		2				○								
	保全生態リスク管理学特論	1前		2				○								
	農産物加工学特論	1前		2				○								
	食品栄養学特論	1後		2				○								
	畜産物利用学特論	1後		2				○								
	食品生物科学特論	1前		2				○								
	食品化学特論	1後		2				○								
	食品分子生物学特論	1後		2				○								
	疫学と経済	1後		2				○								
	家畜生産衛生学	1前		2				○								
	乳肉生産衛生学	1後		2				○								
	食品衛生経済学	1後		2				○								
	循環型畜産科学	1前		2				○								
	動物福祉論	1前		2				○								
小計(20科目)		—	0	40	0			—		0	0	0	0	0	—	
共通教 養科 目	科学と人間	1後		2				○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼2
	環境法制度論	1前		2				○								
	教育学特論	1前		2				○								
	環境と行動	1後		2				○								
	生物環境モデル論	1後		2				○								
	歴史と生命	1前		2				○								
	体育と健康	1前		2				○								
	「北海道文学」論	1前		2				○								
西洋環境文化論	1後		2				○									

	小計(9科目)	—	0	18	0	—	0	0	0	0	0	—
科 目 通	インターンシップ演習	1通		1		○	2					集中
	小計(1科目)	—	0	1	0	—	2	0	0	0	0	—
合計(53科目)		—	14	101	0	—	65	69	9	12	0	—
学位又は称号	修士(農学)	学位又は学科の分野		農学関係								
設置の趣旨・必要性												
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>・食料自給率の低いわが国では、食料基地と位置付けられる北海道十勝地域において、農場から食卓までの一連のつながりの中で、高度な食料生産の知識と技能を体系的に修得した人材が食料関連産業より強く求められている。この要請に応えるべく、環境植物学、農業環境工学及び農業経済学の大学院レベルの基礎(専攻コア科目)を学び、それを基として環境植物学、農業環境工学及び農業経済学をより深く学ぶことができるカリキュラムを教育内容とした本専攻を設置することとした。また、同時に、食の安全の問題にも対応できる人材を養成するため、畜産衛生学専攻の科目も履修可能となるようなカリキュラムに改編し、獣医畜産融合教育を前進させる。</p> <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <p>・必修の専攻コア科目、コース別選択必修科目(環境植物学コース、農業環境工学コース、農業経済学コース)を設定するなど、人材の養成目標に即した体系的な教育カリキュラムに改編</p> <p>・講義と実習を一体化した総合型授業の導入</p> <p>・秋期入学にも対応可能な4セメスター制の採用</p> <p>・インターンシップ演習を取り入れるなど実学を重視した教育プログラムを編成</p> <p>・専攻の区分を越えて学生が必要と認める科目、興味のある科目を受講することができるよう、専攻間の相互乗り入れを可能とする。</p> <p>・学士課程(畜産科学課程)教育からの一貫した人材養成目的の明確化</p> <p>(資源環境農学専攻の特色)</p> <p>・持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ植物の生理・生態・遺伝や土壌に関する高度な知識をもとに食糧生産環境を改善する人材、さらに、食糧生産に関わる経済学や経営学の高度な知識をもとに食糧生産を経営・経済的に維持発展させることのできる人材を養成する。</p> <p>・食料問題がクローズアップされる中、先進国において著しく食料自給率の低いわが国において、食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための高度な知識と技能を修得させる。</p>												
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
<p>・30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p>・専攻コア科目必修14単位、選択必修4単位</p> <p>・英語選択必修科目2単位</p> <p>・コース別選択必修科目4単位以上</p> <p>・アドバンスト選択科目、他専攻科目の中から4単位まで、共通教養科目からは4単位まで修了要件に算入することができる。</p>						1学年の学期区分	4学期					
						1学期の授業期間	7.5週					
						1時限の授業時間	180分					



## 教育課程等の概要(事前伺い)

(生物資源科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
応用生命科学	応用生物化学特論	1前		2		○				1					
	環境生物化学特論	1後		2		○				1					
	生物機能化学特論	1後		2		○			1						
	環境遺伝学特論	2前		2		○			1						
	応用生命科学特別演習Ⅰ	1通		8			○		3	2					
	応用生命科学特別演習Ⅱ	2通		8			○		3	2					
	小計(6科目)	—	0	24	0				8	6	0	0	0		—
応用分子生物学	植物遺伝子工学特論	1前		2		○			1						
	微生物遺伝子工学特論	1前		2		○				1					
	分子生物学特論	1後		2		○					1				
	タンパク質工学特論	1後		2		○			1						
	生物有機化学特論	2前		2		○				1					
	応用分子生物学特別演習Ⅰ	1通		8			○		1	2					
	応用分子生物学特別演習Ⅱ	2通		8			○		1	2					
	小計(7科目)	—	0	26	0				4	6	0	1	0		—
生物資源利用学	畜産食品保蔵学特論	1前		2		○			1						
	酪農食品科学特論	2前		2		○				1					
	食品工学特論	1前		2		○				1					
	畜産食品生化学特論	2前		2		○				1					
	品質管理特論	1後		2		○				1					
	食品機能化学特論	2前		2		○			1						
	生物資源利用学特別演習Ⅰ	1通		8			○			4					
	生物資源利用学特別演習Ⅱ	2通		8			○			4					
	小計(8科目)	—	0	28	0				2	12	0	0	0		—
共通科目	食品物性学特論	1前		2		○				1					
	生体高分子学特論	2前		2		○			1						
	生物化学工学特論	2前		2		○				1					
	集団力学	1後		2		○			1						
	環境記号論	1前		2		○			1						
	環境法制度論	1前		2		○			1						
	地域環境論	1後		2		○			1						
	環境社会学	1前		2		○				1					
	生物環境モデル特論	1後		2		○				1					
	社会体育学特論	2前		2		○				1		1			
	体育指導学	2前		2		○				1					
	技術教育学	2前		2		○					1				
	総合表現論	1前		2		○			1						
	科学と人間	1後		2		○			1						
	文化環境記号論	1後		2		○			1						
	西洋環境文化論	2後		2		○			1						
	高等英文法	1前		2		○						1			
	近現代史特論	2前		2		○					1				
	二十世紀ドイツ文化史Ⅰ	1前		2		○			1						
	二十世紀ドイツ文化史Ⅱ	1後		2		○			1						
	近代ドイツ文化成立史	1後		2		○			1						
	Writing Scientific Reports in English	1後		2		○					1				
	特別研究Ⅰ	1通		8			○								
	特別研究Ⅱ	2通		4			○								
	小計(24科目)	—	0	56	0				12	6	3	2	0		—
合計(45科目)		—	0	134	0				26	30	3	3	0		—
学位又は称号	修士(農学)		学位又は学科の分野			農学関係									
設置の趣旨・必要性															
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
						1学年の学期区分									
						1学期の授業期間									
						1時限の授業時間									